

会 議 録

会議の名称	平成26年度第3回富士見市社会教育委員会会議
開催日時	平成26年6月4日（水）午後6時～8時30分
開催場所	教育委員会 2階 会議室
出席者	高野昂子委員、西山ひろみ委員、児玉亮一委員、 武田秀規委員、田尻 円委員、長ヶ原美博委員、 本間雄一委員、千葉純平委員、岩村沢也委員 小森和雄委員、 事務局（生涯学習課長、主査）
欠席者	なし
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	<p>1. 協議事項</p> <p>（1）富士見市の生涯学習・社旗教育委員の立ち位置</p> <p>（2）建議について</p> <p>（3）今後のスケジュールについて</p> <p>（4）研究内容</p> <p style="padding-left: 2em;">①家庭教育（親の学習）の取組み</p> <p style="padding-left: 2em;">②市民目線のホームページの作成</p> <p>2. 報告及び連絡事項</p> <p>3. その他</p> <p>（1）その他</p> <p style="padding-left: 2em;">*次回会議日程</p> <p style="padding-left: 4em;">日時：平成26年9月を予定</p> <p style="padding-left: 4em;">会場：未定</p>
会議資料	① 富士見市の生涯学習・社会教育委員の立ち位置 ②家庭教育に関する現状やこれまでに出了意見等 ③会議録 ④富士見の公民館 ⑤公民館だより（6月号） ⑥難波田城だより ⑦平成25年度子ども大学ふじみ事業報告 ⑧平成25年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会研修録 他
会議録確認	武田秀規委員

会 議 内 容 (要点記録)

◇ 開 会

◇ 議長あいさつ

◇ 会議資料について

事務局から、配布物確認を行う。

○ 報告及び協議事項

1. 協議事項

【議長（武田氏）】

(1) 富士見市の生涯学習・社会教育委員の立ち位置

はじめに、事務局より説明をお願いします。

【事務局】（説明）

富士見市における生涯学習とは、社会教育委員はどのような活動をする委員なのかを、第2次生涯学習推進基本計画より説明。

富士見市の生涯学習の基本理念、現在この委員会で検討している家庭教育は基本目標が3つあり、その1. 生涯にわたって自由な学習ができるまち で家庭教育についての施策を行っていく。施策体系では、施策の柱(1) 子ども・若者の成長や自立の支援と家庭・地域における教育・学習の充実 基本施策①子育て・子育ての学びの支援と表現している。

社会教育委員の職務は、社会教育法17条に定められており、法に基づいて社会教育委員会議を行っております。

今年度の社会教育委員に期待されていることは、平成26年度富士見市教育行政方針に定められている。「家庭・地域の教育力の向上」で、家庭教育支援策について調査・研究を行うことが記されています。

後1年ほどの任期の中で、家庭教育について調査を継続して、来年の5月に建議と言う形で教育委員会に上げて頂くことになります。

再確認の意味で資料提供しました。

【議 長】

最初のオリエンテーションの資料でいただきましたが、これからまとめていくこととなりますので、社会教育委員の立ち位置を、改めて再確認をしてみました。

これまでで質問がありますか。

【委 員】

生涯学習基本計画は、生涯学習を立てる協議会で作る訳ですね。

【事務局】

もう出来ています。平成23年～32年ですが、26年度はそろそろ進行状況等の中間の調査を手掛けていく頃です。

【委 員】

生涯学習と社会教育が並んでいて、我々社会教育委員会議で議論しているものと、

生涯学習の方で議論しているものと被るものがあるのかどうか？棲み分けがあるのか出来ていないのか？例えば生涯学習でやりつつかつ社会教育になっているものもある。そこは棲み分けをすべきなのかどうか？ 教育委員会としてはどういう風に分類しているのか？

【事務局】

県の研修では、「生涯学習の中に社会教育と学校教育が含まれている」と、県の担当が言っていた。業務として社会教育課が生涯学習課に変わったが、何か大きく変化したかというところ恐らくそんなには無いと思います。

【委員】

社会教育というのは、公民館がベースとなって、地元を豊かにするために、自分たちで考えて自分たちで解決することは皆で学習して頑張っってやっていこうというのが、社会教育のスタンスで、生涯教育といった場合は必ずしも地域還元型ではなくて、個人で自分の人生を楽しもう、そのためには学校だけでは足りない、人生長くなって来たので、ただそれは必ずしも老人教育だけではなくて、生涯と言った場合には、青少年育成・青少年教育も含みます。教育と言った場合は上から指導する、生涯学習と言った場合は自分たちで進んで勉強する・学習する。と言うのが基本的な考え方なのかなと思う。活動していく中に、自分たちで折角学んだものを地域に生かしたい、と言うことで地域貢献、自分たちで知っていることを指導できたら、それも喜びにもなるし、折角人材としてあものを活用しようと。それは社会教育的なニュアンスになるので、結果として重なってくることになる。

【事務局】

分けるのはすごく難しいところと感じる。例えば公民館の活動で、個人で楽しんでやっている活動もグループでやっていけば、他の人にいろいろな影響を与えて、他の人の社会教育に繋がることもある。ここまでが社会教育で、ここからが生涯学習となかなか現実的には分けにくいと思う。

【委員】

我々に与えられたミッションというのは、子育て支援というという部分で、具体的な提案をということですね。確認でした。

【議長】

教育行政方針の所で、そのために具体的にどういうことをやったらいいのかを、投げかけられていると解釈しているのだが、それがこの場で求められていると思うし、皆さんもこれ従って進めてきたと思う。(1)については良いですか。

(2) 建議について 説明をお願いします。

【事務局】

これまでの建議について、調べてみました。平成9年から昨年までの報告を見ますと、年によっていろいろな纏め方をしています。昨年は、アンケートを取って、その資料がたくさん添付されています。一昨年は、各委員のテーマで、夫々が報告

書を書いている。

市以外の国・県の建議を見ますと、P3のような 1はじめに 2現状・課題 3意見・考察 4具体的な提案 5まとめ という、報告書はこんな形なのかと感じました。

これまでは、委員が分担して文章を書いて、最終的に事務局がまとめる という手順で行っていたと思います。今回も、この項目はひとつの案ですが、これを分担して皆さんで文章化したものを事務局がまとめる形で進めたいと考えています。

【議 長】

(3) 今後のスケジュールについて も説明をお願いします。

【事務局】

社会教育委員会議は、2年間で16回の会議を行っています。最後の3回で建議のまとめ見直しをして、最後に教育長に提出するとなっています。

議長と打ち合わせしましたが、2月の末に原稿締切にし、3月4月で原稿の見直しをするようなスケジュールでどうでしょうか。

今日が9回目で含めて5回をどうするかということですが、何かいろいろ調べるのか、建議を作成し始めるのか、話し合えればと思います。

【議 長】

最終的には建議としてレポートをまとめることになりますが、我々の任期の来年5月に提出する。まず原稿を分担して書き、来年の2月末までにまとめて提出し、3月4月で、見直し・校正をするという形に出来ればいいなと思います。

それで、「家庭教育に関する現状やこれまでに出了意見等」という用紙を見てください。最初の投げかけは教育委員会から「家庭教育・子育て支援」が先ず大元にあったわけですが、そこが建議の1のはじめに、になると思います。2の現状・課題は、**現状**ですね。それに対して、**意見**・考察という言い方でもいいと思うが、3の意見があり、最終的には、講座のようなものを学校・PTAに投げかけてやってみてはどうかということ、具体的な施策を、4具体的な提案に起こして、最後は、5おわりとして、まとめとする。と言うことを、事務局と相談しイメージとしてまとめてみました。

そこを見据えた形で、今後の協議をお願いします。

ここまですご意見をお願いします。

現状・考察はある程度の意見が出ているような気がします。

それではこで、(4) 研究内容 ①家庭教育(親の学習)の取組み ②市民目線のホームページの作成 の説明をお願いします。

【事務局】

議長との打ち合わせで、これまでの会議で、現状・課題・意見・アイデア等が出て来ていると思います。事務局で県や国の発行文書を調べましたが、同じような内容が書かれていると思いました。それが、みんなが漠然とは感じていることだと思う。人間関係の希薄など、皆さんの常識的なものになっている。それを報告書と

してまとめるときには、かなり具体性を持ったものでなければいけないと感じる。テーマを絞って報告書にまとめ方がいと議長と話しました。

①は前々から出ていた「家庭教育、親の学習の取組み」ということで、PTA など実施をしていく方向で残りの委員会をやって行き、社協委員の皆さんが講演の企画から実施までやって、その中で気が付いた課題点や改善点をまとめていく。PTA に依頼することが出来なく実施できなくても、講座実施までのフローのような形で表現できれば、来年度以降の PTA の方たちにも、こういう形で事業を行うことが出来るという提案にもなると思います。具体的な取り組みは、PTA・学校・社会教育委員・家庭教育アドバイザーが打ち合わせをするところから調査・研究をしていく。

②は前々回にホームページのことが出ていましたが、富士見市のホームページを見ると「子育てするなら富士見市で」と出ています。富士見市の PR 目線のページになっている。議長と話して、子どもの年齢の目線で事業があるのか、縦割りになっているものを横につなげるホームページが出来ないか。と言うのが出ていたので、具体性があるいいなと思った。そこで、この二つを研究内容にしていけば、かなり具体性を持った報告書になるのではないかと、議長と話し合ったところです。

【議長】

具体的な例として、PTA・学校に協力をお願いして、保護者への講座を設けたらどうか、それについては家庭教育アドバイザーを活用しながら実施ということが出ていました。家庭教育アドバイザーについて資料があるので、説明してください。

【事務局】

議長と打ち合わせした後、県からメールが来たものを添付しました。家庭教育アドバイザーが PTA の希望と違う内容の話をするのではないかと懸念がありました。家庭教育アドバイザーがどんな研修・学習をやっているのか、分からないということがありましたので、丁度「養成研修実施要項」が送られてきて、8 回の研修を受けていることや、対象者がわかりましたので参考資料としました。これによって、家庭教育アドバイザーの特性や大勢の前で話が出来ることが分かるわけではないのですが。また教育相談室でやっているピュアサポーターを活用することも出来るし、他から講師を招いてこちらで組み立てていくということも一つの案だと思います。

【議長】

(委員の) PTA 関係の方に PTA をお願いして、モデル校を募って学校単位で講座を開く。具合的内容は、発達状況に応じて、就学時・中学年・高学年・中学入学時等に親の不安に応える形、学校・PTA のニーズ・希望に沿う内容で、実施したらどうか。出来れば社会教育委員会に、学校・PTA の方、また講師の方にお出でいただき、3 者で内容を具体的に話し合う。年度内に講座が開ければ、開催しての結果がレポートに反映できる。スケジュール的には厳しいかも知れない。打ち合わせの段階の学校・PTA・講師の 3 者に社会教育委員も加わって、それを研究調査という形で具体的提案という纏め方が出来ればと思います。講師には、家庭教育アドバイザーやピュアサポーターをお願いするというのがありました。どちらがいいかは学校・PTA 側に判断していただく、そこも含めて打ち合わせした方がより実効性がある

と思う。9月か10月に学校・PTA・講師にお出でいただいて打ち合わせし、それを受けて社会教育委員会で話をし、それを纏めて行く。スケジュール的には出来るのかと思う。

以上が私の印象ですが、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

【委員】

ピュアサポーターと家庭教育アドバイザーについて、小学校・中学校どちらでと考えた時、小学校で活用していただくのは家庭教育アドバイザーが素晴らしい。端的に言うと、子育て支援、児童をどう育てて行ったらいいか、特に就学時健診でこれから新入してくる子の親に対して話して頂いた例はほとんどの学校がそうだと思う。もう一つピュアサポーターは、中学校で取り組む予定でいるが、中学校の課題は子ども達同士の間人間関係が非常に複雑になってくるので、子育てよりも、そういう状況に陥ってしまった子どもをどうするかという内容が多いかと思う。未然防止策として人間関係作りのアドバイスを聞くというのが効果的なのかなと思う。

【議長】

発達段階に応じて、親が戸惑う課題があると思う。就学時だけでなく節目節目のところで課題がある。中学校の課題の学習は、中学校でなのか、中学校入学前の時点なのか。

【委員】

文部省の指針の中には、小学校高学年の間人間関係の難しさが課題に出てきます。

【議長】

小学校のうちにもやる必要があるし、中学校でもやる。

【委員】

小学校5・6年から系統立てて、中学校へ繋げていくというのがいいかな。

【委員】

大学のコミュニティカレッジの聴講者は、先ず制度を知りたいと言う。子育て支援に置き換えると、子育て支援にはどんな方法があるか。どこに何を相談に行ったらいいですか、と言うのがある。私にとって、ピンポイントで相談に乗ってくれるところを紹介できるかが、この講演会の価値だと思う。私にとって役に立つということ。そこをよく考えて講演者を選ぶ。それと、富士見市の施設・人を具体的に説明する機会になる。

【議長】

今回は、社会に還元するというより、個人にとってためになるものが出るかどうか。それが繋がっていけば、お互いに支え合っていくことに繋がっていくと思う。

研究内容②の市民目線で言えば、自分が欲しい支援はどこを見ればわかるのかが、子育てし世代にとって分かりにくい。講師と一緒に教育委員会の職員がついて行って、最後に補足的に市のホームページの説明などできるといい。

【委員】

子育て中の方の中には、障害を持っている方が、助けを求めているのだけれども
どういう風に求めているのか分からない。そういった方の琴線をつかめるような情
報を流せたらいいなと思う。

【議長】

実際にそういう取り組みをするなら、講師に最初からお任せではなく、事前にお
話しをしていく。そういう仕組みにしたらいいいのではないかと言うことです。

社会教育委員で1回やってみたら、具体的に提案出来ると思います。

【委員】

「私にとって役に立つ」というのはいいキーワードだと思う。自分の子育ての時
を思い返して、私にとって役に立つ情報が、広報ふじみの中にあっても、子育て中
の忙しい時に、この情報を手繰り寄せるのがとても大変なのです。

PTAの方たちにどんな悩みがあってどんな講座を聞いてみたいかを挙げてもらっ
て、家庭教育アドバイザーの方に具体的な相談例を出してもらおうと、相談しやすい。
先日、母子保健推進員の訪問先で、初めての子育てで実家も遠い人は、質問攻めで
した。こんなことで毎日悩んでいるんだと思いました。

PTA・校長・家庭教育アドバイザー・我々の4者で話し合いたいと思います。

【委員】

複数の家庭教育アドバイザーにシンポジウム・パネルディスカッション的なもの
にしてもいいと思う。

【委員】

それぞれ得意な分野もあるでしょうし、壇上で意見が出るのをみるのもいいでし
ょう。

【委員】

お母さん方が市・県にこんなに多様なアクセスの仕方があるということを実感で
き、その中でどこか選べるということになるといいかも知れません。

【議長】

有名な人が話しても、家は違うなと思う。何人かいるとこういう方法もこういう
方法も、ということがある。講師が一人ではないことはいい。

【委員】

PTAに何度か下話はしてきまして、児玉先生のところがP連の会長と言うことも
あって、風通しがいいと思う。

本郷中学校で、学校運営支援者協議会があって、中学校と小学校の課題は根本的
に違っている。中学校では公開授業の参加が一気に少なくなる。どうしてなんだろ
う？と、本郷中はPTAの委員会の組織がないが、委員会がないと公開授業の意識が

伝わらないのかな、PTAの組織も考えなくてはと思った。

PTAの常任理事会でも事業をスリムにしていくことと、新年親睦会も無い。やることは、市への要望書を上げる事と、2月に教育懇談会で教育長・教育委委員長が来て色々議論することがある中で、学校と一番側にいるのがPTAかと思う。一発行事は何処でもやっている。行きついた話が、ここに出てくる親は大丈夫、出てこない親が問題、となる。忙しいし、いろいろ話せる場が、何時でもとはいかなくても学校の力も借りて、相談に乗ってもらえる場が近くにあること。PTAと先生たちに意見を上げて貰って、やって行くことが、的は外れないと思う。一緒に集まって、話していくということが、きっかけになる。市P連・校長会・社会教育委員が話を共有させていくと、何かあった時に話が伝わりやすい。

教育方針で家庭教育の支援策についての調査研究と言っている訳ですから、誰のためにどういう所まで持っていくのか、ゴールが決まっていないと、と感じる。

【議 長】

これまでPTAに協力していただいて、と言うことを前提にして話していますが、次回の会議にP連の三役と校長先生、出来れば家庭教育アドバイザーの方に来てもらえればと思います。

【事務局】

親御さん代表で連Pの三役の方と、校長会の会長・副会長、家庭教育アドバイザーにお声掛けし、8月末から9月頭で調整します。9月6日(土)の方が事務局としてはありがたい。

【議 長】

次回のこの会議もこれに合わせて、開催しましょう。

その時にはここに出ている課題を討議いただく。具体的には、これまでの協議を纏めながら、こういう講座を開いてほしいと思っているもので具体的な内容の要望を聞く。参加者には事前に内容をお知らせして会議に臨んでもらう。

【事務局】

それが研修に繋がらなくても、そこでいろいろな方の意見を聞く事によって現状が見えてくるのではないかと思う。

【委 員】

富士見市の子ども大学の副実行委員長は、富士見市青少年健全育成市民会議の高野さん。事務局にお任せしますがこういう方をシンポジウムにお呼びするか、アドバイザーとして機能する方・組織なのかどうか。

【事務局】

前は青少年健全育成市民会議は生涯学習課が担当していたのですが、今は市長部局に移ってしまったので、現状把握できていないのです。

地域自治シンポジウムの第1分科会で子どもの問題を議論するのですが、いろいろな団体から意見がでるのですが、少し議論がぼやけてしまうかなと思う。

【委員】

青少年健全育成市民会議は、15 団体が入っていて、その中に P 連も町会長、商店会、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、育成会も加盟して出来上がっている。支部（4 つある）の活動がメインですね。宿題教室は水谷支部のみで実施。全体行事としては、中学生の主張大会などがあります。関わっている層が子育てから随分遠くなって、地域活動というところ。大きな箱で地域の子ども達を見守るという感覚ですね。

【事務局】

家庭教育の方は、9 月の頭くらいに打ち合わせが出来るような段取りで準備をしていきます。日程が決まりましたら連絡します。

ホームページはどうしましょう？ 両方研究していくか、一本に絞るか。

【議長】

横軸・縦軸で表す。縦に乳幼児期・小学校低学年・高学年と年齢を取り、横に乳幼児期は健診があり、地域には公民館の乳幼児教室がある、小学校では子ども大学があるというようなものを作る。今は、イベント毎に載っていて、家の子どもはこれに当てはまるかどうか分からない。子育て支援課の情報と健康増進センター情報が 1 ページに出てこない。子育て支援というのが 1 ページに出てくれば、探しやすいかと思う。

【委員】

私はホームページではなくて広報紙です。最後の方が子育てのページなのでそこを見る。でも全部目を通さないと何処に当てはまるかは分からない。

【議長】

事例がほかの市であればそれを基にしていけばいいですね。

【事務局】

ホームページは各担当課が作る。「子育てするなら富士見市で」ということで、子育て支援のページを更新しなさいと秘書広報課等で指示してくれれば皆そうなる。これを生涯学習課が作ることになると思うが大変になる。各担当課が原稿を貼って行くようにすれば、そんなに難しいことではない。

【委員】

どこかで総合的なまとめ役は必要ですね。市以外の国・県・財団法人とのリンクも必要になってくる。

【事務局】

発展するとそうなりますね。先ずは作ることからで、広報担当の秘書広報課の広報担当がホームページを管理しているので、そこが作ることになると思う。

【議長】

一回作ればいいので、そのイメージ作りを誰がやるのか。広報課に任せるのではなく、それは教育委員会が作ることが必要でしょう。

提案する内容を最後に載せるかどうかですが、載せていきますか？

【委員】

PTAの方に聞いてみたらどうか。PCを使っている世代と思われるので。

【委員】

今は、形とかはきれいですが、どこに何が載っているか分かりづらい。

個人的には、あなたのお子さんは？で プルダウンすると、小学4年生、カテゴリが教育、相談室とかカチャとやる、と言うようなイメージ。

ホームページを作る話し合いの場が与えられると嬉しいですね。

【議長】

では、お集まりいただいた時に何うということで、このまま留めて置きましょう。休憩を10分取りましょう。

再開します。協議事項についてここで締めますが、何か発言ありますか。

【委員】

9月にPTAや先生に来ていただくということですが、9月にお話しを伺って、10月から5月までの中で、原稿締切が2月と言うことになっていますが、スケジュール的にうまく纏まるのでしょうか？

今までやった方にお聞きしたいのですが、各委員が分担して書くとなると大変だと思うんです。材料がきちんと集まらないと。特に社会教育委員として少し格好よく書こうとするとますます難しい。それから委員の力だけでできるのか？

【委員】

前期は、話し合った内容は事務局がまとめてくださっているのをそれを使い、アンケート作りは委員でやり、アンケートを取り回収をし、アンケートの集計は事務局がやってくれ、分析は2つに分かれて委員がやり、纏めるのは難しかたので、1つの文化系は課題など横系列で出せた。PTA・地域団体は年齢層も違い・活動の内容も違うので、それぞれ活動の分析をまとめて作ったものを、うまく事務局で纏めた。

その前の「活用しやすい広報紙作りと掲示」も2つのグループに分かれてやった。一枚の紙にイラストっぽく作ったのと、広報紙はレポートのように纏めて出した。

【委員】

「建議」だと簡潔でいいのではないか。こんな分厚くなくていいのではないか。かえって読んでくれない。出来る限りポイントだけでいい。

【議長】

なるべく薄いほうがいい。パッと見て分かりやすい様に。文字量は少ない方がいい。その意味で、こじやれた文章でなくていい。ポイントさえ押さえておけば。細かい字句や行政用語は事務局が精通していますし、とりあえず自分の言葉で作って

もらえればいい。そのための材料が議事録とか資料があります。

【委員】

場合によってはポイントだけ箇条書きで出して、後は事務局に纏めてもらう。あとはそれで出来ちゃう。一人で考えているとそこで止まってしまうような気がする。一人の方がまとめた方がいいのではないか。載せてほしいことだけ確認して、あと事務局でどうしても入れたいものを確認して、全部合わせて2ページくらいでいい。

【事務局】

最終的には事務局で手を入れますが、折角皆さんが研究協議したものですから、形にしていきたい。

ポイントを絞っていただき、皆さんの総意で作っていただきたい。一つに纏めて頂きたい。

建議かどうかというのは、前任の佐藤に聞いたところ、提案書と言う形が多い。前回28期は、「社会教育委員会協議結果報告～地域活動の活性化と次代を担う仲間作り～」というテーマですね。27期は、「生涯学習をより身近なものに～学習情報の発信手法に関する提案～」。報告とか提案と言う形で纏めていることが多い。

【委員】

今年初めて「建議」ということで、少し戸惑ったんですけどね。

【事務局】

「提案」ということでも構わないと思います。

【議長】

逆に、社会教育委員会協議として投げかけられていることで、行政がどういう形で返してほしいのか。「建議」なのか、「協議記録」でいいのか、「提案」が欲しいのか、行政サイドの方で考えてもらうことなのかと思う。

【事務局】

教育行政方針では、調査・研究を行っていただきたいということですから、その研究結果がわかるものを出していただければ有難いですね。

【委員】

なんとなくイメージ的には分かったが、不安ですね。2か月空きますが、スケジュール的には大丈夫ということですね。

【議長】

前の時は正規の会議以外にグループごとに集まってやったことはあります。その辺は個別に来て相談した方もいます。このスケジュールは報酬の回数でしょうから、これ以外は自主的にやっていただく。

【委員】

調査・研究した結果がどう生きているのか。その検証はどうなのか。本当にそれが届いて、いいものができるのか？

【事務局】

そういう課題はあると聞いています。直接形になることはなかなか難しいことも多いと思います。教育行政方針等にはそういったものも加味されて作られていると思いますので、全く無意味ということは無いと思います。行政の方では、いろいろな意見をいただいた中で計画を作っていきますので。

【委員】

PTAでも先生たちでも出来ない事が、本気になれば出来ると思うので、それがぼやけてしまっているところがあるので、地域の団体もいろいろあるので、どうせやるのだったら意味のあるものを作って行った方がいいと思う思いはあります。調査・研究とずーっと言っていたのでどうなのかなと思っていました。

【議長】

今回については、こんな講座をやったらどうかと言う具体化した提案で、今までは漠然としていたが、今回はほとんど予算化までやる。ほかの団体まで巻き込んでお願いしてまでやるということで、私の方では、講座を実施する時のフローチャートなり段取り書なりまで作って、これだったら出来るというところまで一緒に作る。目に見えてやったかやらないかは学校それぞれあるでしょう。より具体的な形であればあるほど、行政の方も、形に出来るものはするでしょうし、出来なければあれはだめなんだと思う。職員は異動があるので、具体的なものがあれば引き継ぎは出来ると思う。観念的なものではなくで終わりがねない。そういう意味では頑張っ出て出したいなと思います。

時間も経過しましたので、報告連絡事項に移ります。事務局からお願いします。

【事務局】

2. 報告及び連絡事項

(1) 西部地区人権教育実践報告会

7月25日(金)1時～川越 バスが出る。時間あ改めてお知らせする。
高野・田尻・西山委員に出席をお願いします。

(2) 4月・5月の研修出張について

小森・長ヶ原・武田委員を確認する。手続する。

(3) 社会教育委員部会

7月16日(水) 川越地方庁舎。年間計画に入っている。

(4) その他

1) 地域や所属団体などについての情報交換

*高野委員：5月18日、文化協会創立50周年記念式典実施。記念誌発行を皆さんに配布します。ご高覧ください。

小森委員から質問：文化協会加盟団体の範疇は？ビデオクラブに所属しているが何処に入れるのか？自分で入りたいと言えば入れるのか？

高野委員から答え：文化祭は文化協会・音楽連盟・美術協会・民謡連盟の4

団体で実行委員会を組織している。ご自分で入りたいでよい。

2) 本日の感想

*千葉委員：欠席していたので、話の流れがなかなかつかめず発言できませんでした。インターネットの話の中で、今は情報が得やすい環境にある。その中で富士見市に情報を求めてアクセスする人がどの位いるのか、その情報はどうしたら見やすいのかを考えた時、今回の提案は面白いと思いました。今後参加する中で意見が出せたらと思いました。

*長ヶ原委員：遅れてきてすみません。PTA・校長会の代表の方に来てもらうというのは良かったと思います。数年前、「人間関係づくり」が流行りだったので、勝手に講師を呼んで勝手に実施したら参加者は少なく大失敗をした。この会議の中でPTAの方や校長に骨を折って意見を出して貰えれば良いと思う。PTAの中でも役員と一般の会員の方とは違うとうことを感じながら、段取り8分で十分出してもらおうと実りのあるものになると思う。

4 その他

*次回の日程は、9月初旬とする。

5 閉会

【副議長】お疲れさまでした。9月ということで時間が空きますが、議事録をご覧いただければこれまでの内容が分かりますので、お忙しいとは思いますが暑さに負けずに見直していただいて、9月を迎えられればと思います。これにて平成26年6月の定例社会教育委員会議を終了いたします。

(閉会)